

平成29年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	7 - 1 - 6
事務事業名	スクールバス運行委託料			担当課係	学校課
総合計画上の位置付け	政策	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり		記入担当者	
	基本目標	1. 安全・安心なまちづくり		内線等	
	施策	1-1 安全・安心な日常生活の確保		E-mail	
	基本方針	1-1-4 交通安全対策の推進			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	10	教育費	項	1 教育総務費
	目	3	教育指導費	事業	9 スクールバス運行委託料
開始年度	平成16	年度	根拠法令・要綱等	小松島市安全なまちづくりに関する条例、義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令	

■事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 横須・金磯・赤石地区より南小松島小学校へ通学する1・2年生のうち、スクールバス通学希望者
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 遠距離通学となる児童の安全な通学手段を確保する。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 貸切バスを取り扱う事業者に運行业務を委託している。また、利用登録料（年間）として児童一人あたり20,000円（片道利用の場合は10,000円）を徴収している。児童はスクールバスに乗車する際、利用許可証を乗務員に提示してから乗車している。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 遠距離通学となる南小松島小学校児童への支援として、平成16年9月1日より事業を開始した。平成27年3月末をもって市営バス事業が廃止されたことに伴い、平成27年度からは民間事業者に運行を委託しているが、事業費は増加傾向にある。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果
	単位	H28	H29	H30	H31	目標年度 目標値	
	人	39	36				
	実績	39	36				
	達成度	100.0%	100.0%				

活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H28	H29	H30	H31	指標の説明
	スクールバス利用登録料	円	計画	575,000	503,000	506,000	
実績			506,200	478,800			
		計画					
		実績					
		計画					
		実績					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		28年度決算	29年度決算	29年度予算	30年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	6,674,400	10,147,680	10,541,000	11,081,000	
	財源内訳	国県支出金				
		地方債				
		利用者負担	506,200	478,800		
		一般財源	6,168,200	9,668,880		
	B 人件費 ①×②	737,668	518,679			
	職員平均人件費①	7,376,684	5,186,785			
	従事した割合②/人	0.10	0.10			
	A + B	7,412,068	10,666,359			
	単位コスト	活動指標の説明	スクールバス利用児童 (39人)	スクールバス利用児童 (36人)		備考
活動指標1単位当たりコスト		190,053	296,288		平成28年4月1日現在 人口39,358人 平成29年4月1日現在 人口38,817人	
市民一人あたりのコスト		188	275			

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺状況等や今後の予測) 鳴門市などでは学校再編に伴う通学距離の延伸により、スクールバスを導入しているケースが多い。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 平成29年度に開催した小学校再編に係る小松島市立学校再編有識者会議においても、スクールバスなどの通学支援に関する住民の関心度は高いことが明らかとなった。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	遠距離通学となる南小松島小学校低学年児童に対して行う本事業は、交通安全の観点からも有益である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	南小松島小学校校区においては、路線バス(公共交通機関)が確保されており、通学困難地域というわけではないが、本事業は児童の発達段階を考慮し通学距離の長い小学校1・2年生を対象としており、妥当性はある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	市営バス事業廃止により平成27年度からは民間事業者運行に委託している。利用者の減少、事業費の増大を考慮し、事業のあり方を見直す必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	南小松島小学校付近の交通量が非常に多いうえ、児童の送迎をする保護者等の車両が校内への出入りと重なれば学校運営上安全確保が困難となることから、本事業の緊急性は比較的高い。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	保護者・地域の方々の協力もあり、遠距離通学となる児童が、登下校時ににおいて交通事故や事件に遭遇することなく、安全・安心な通学手段を確保している。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	児童の安全・安心な通学手段を確保するとともに、低学年への体力的な負担の軽減、放課後の遊び時間や家庭学習時間の確保を図る必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	1 拡 充 す る	80 点 以 上	評価点による判定	判定に至った理由	利用者数の減少が見込まれる中、児童の保護者、学校現場の要望を踏まえ、スクールバス運行以外の通学支援策を早急に講じる必要がある。
	2 現状のまま継続する	60～79点			
	3 改善・効率化し継続	40～59点	評価点 66		
	4 終期設定し終了	20～39点	2		
	5 完了・休止・廃止	19点以下			

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】
路線バスの定期利用に対する補助やスクールバスの運行期間の短縮(児童がバスに慣れるまでの間)など、スクールバス運行以外の通学支援策とともに、保護者・地域のスクールガード等と連携し、児童の安全・安心な通学を確保する。

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	1 拡 充 す る	判定説明	学校教育の直接の受益者である児童・保護者や地域住民の十分な理解、協力が図れるよう、検討を重ね、適正な通学支援のための事業整備を行う。
	2 現状のまま継続する		
	3 改善・効率化し継続		
	4 終期設定し終了		
	5 完了・休止・廃止		